

## 外国語教育の推進とコミュニケーション能力育成のための学級風土を醸成する取組

市川町立鶴居小学校  
教諭 久後 龍馬

### I 外国語教育の推進

#### 1 はじめに

外国語活動が導入された当初より、福崎町、市川町の全ての小学校が足並みをそろえて楽しく外国語教育に取り組むためのシステムの構築に力を注いできた。まずは、町内の小学校のカリキュラムや指導案、授業の型、教材・教具を統一、共有することから始めた。さらに、2016年度からは、5、6年外国語科を意識し、音と文字をつなぐ学習を取り入れるなど、研修を重ねてきた。福崎町で5年間、市川町で3年間の外国語活動の担当者として取り組んできたことを紹介したい。

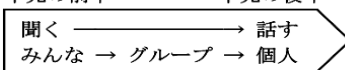
#### 2 取組の内容・方法

##### (1)カリキュラムの統一、共有

カリキュラムは、毎年、文部科学省から配布されたテキストのダイアログをベースに作成してきた。「英語ノート」に始まり、「Hi friends」「Let's try」「We can」と配付される資料が変わるたびに直してきてきた。ただし、テキストをそのまま使うのではなく、教材の1つとして活用してきた。2020年以降は、採用した教科書をベースに作成する。

##### (2)指導案と授業モデルの統一、共有

市川町では、各校の担当者や JTE と相談し「対話型」と「発表型」の2種類の授業モデルを作成した。単元の前半は「対話型」で授業を進め、後半は「発表型」の授業となる。教師は、基本的にオールイングリッシュで授業を進める。

指導手順	対話型(1～5時間目)	発表型(6時間目)
1. 挨拶	Hello. How are you?	
2. ウォームアップ 帯の活動、復習	1. 体調、レスポンス、天気、曜日、日付 2. フォニックス(アルファベット) 3. コミュニケーションタイム	
3. ライティング	1. abc 体操(小文字導入時) 2. Let's write	
4. 導入(1) 目標表現の導入 T/T のやりとりで 表現の内容を推測 理解させる活動、 チャンツなど	1. 単語の導入(フラッシュカード) 2. スキットやスモールトーク 担任と ALT による寸劇。 英語のやり取りを見て、何を言っているか推測理解させる。 3. チャンツ リズムに合わせてダイアログを言う。	1. 単語の復習(フラッシュカード) 2. スピーチのデモンストレーション 担任や ALT が今日のスピーチをデモンストレーションする。
5. 展開(1) いろいろなゲーム など	1. アクティビティ 2～3 種類 単元の前半 → 単元の後半 	1. スピーチカード作成 日本語で説明してもよい。 2. 練習 ①教師の後について ②各自で
6. 展開(2) コミュニケーション活動 インタビュー、発表、ワークシートなど	1. 対話活動 インタビュー、名刺交換など友達と対話できる活動	
7. ふりかえり	外国語活動日記	
8. 挨拶	That's all for today. Stand up. Thank you. Good bye, Ms. ～.	

1時間の授業で、外国語のシャワーを浴びるように耳から音を入れて、次第に無理なく発音し出すという言語習得の仕組みを意識している。これらの指導により、乳児が母国語



学校に円滑に接続できるよう音と文字をつないでいきたい。「読むこと」「書くこと」についての研修を積み、「カリキュラム」「指導案」「評価」について中学校への接続を円滑にする外国語教育のシステムを再び構築していく必要がある。

## II コミュニケーション能力育成のための学級風土を醸成する取組

### 1 はじめに

鶴居小学校では、2015年より「心豊かに伝え合い、共に高め合う児童の育成」をテーマに、児童のコミュニケーション能力の育成に取り組んできた。研究を進める中で、コミュニケーション能力の育成には、互いに認め合い、自分らしさを発揮できる学級(学校)風土がベースとなることを学んだ。そこで、話型の習得や声の出し方といった技術に偏重していた研修内容を、認め合う学級(学校)風土を醸成する研修内容へと修正した。さらに、2018年度からは、醸成されてきた認め合う学級(学校)風土をベースに、『「主体的、対話的で、深い学び」の授業の追究』をテーマに研修を深めてきた。5年間の研修の取組について紹介する。

基礎・基本	活用
<p>【生きて働く知識・技能の習得】</p> <p>言語活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>読み聞かせ、読書</li> <li>辞典引き指導</li> <li>日記指導</li> <li>対話活動</li> </ul> <p>声を出すことを勧める「音読タイム」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>姿勢、口形、明瞭な声</li> <li>声をそろえる</li> </ul> <p>「系統的な話型の習得」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理由づけ、列挙、順序、同意・共感、反論、例示、統合、結論、引用</li> </ul>	<p>【思考力・判断力・表現力の育成】</p> <p>&lt;新学習指導要領&gt;</p> <p>「聞くこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有</li> <li>⇒受信型メモの活用</li> </ul> <p>「話すこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>話題の設定、情報の収集、内容の検討</li> <li>構成の検討、考えの形成 ⇒発信型メモの活用</li> <li>(情報を取捨選択、整理する)</li> </ul> <p>「話し合うこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>表現、共有 ⇒話型の活用</li> <li>話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有</li> </ul>
<p>『鶴居小「主体的で、対話的で、深い学び」をみるものさし』を活用した研究授業</p> <p>①授業のねらいや題材が適切であり、教師の発問やパフォーマンスによって、児童の主体的、意欲的な行動がみられるか。</p> <p>②対話方法や対話させるタイミングは適切で、児童の思考が広がっているか。</p> <p>③教師が対話を見とり、効果的にコーディネートしているか。</p> <p>④児童が思考する時間や組み立てであるか。</p> <p>⑤情報を選択し、自分の意見を考えているか。</p> <p>⑥相手の意見を踏まえて、自分の意見を考えているか。</p>	
<p>養地・風土 【学びに向かう力・人間性の涵養】</p> <p>「ほめ言葉のシャワー」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自尊感情を高める</li> <li>認め合う風土づくり</li> </ul> <p>「質問タイム」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他者理解を深める</li> <li>質問力を鍛える</li> </ul> <p>「価値語」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>よい行動の価値づけ</li> <li>価値ある言葉の植林</li> </ul> <p>「聞くのあいさつ」(1, 2年)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>聴き名人(3~6年)</li> <li>傾聴的な態度で聞く</li> <li>相手軸に立って聴く</li> </ul> <p>&lt;菊池実践をベースに養地・風土を醸成する&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安心して自分らしさを発揮できる学級風土</li> <li>互いのよさを認め合える関係性</li> <li>圧倒的な対話量の保証</li> </ul>	

### 2 取組の内容・方法

#### (1) 全校で取り組む「ほめ言葉のシャワー」と「質問タイム」

全ての学級で菊池省三先生が考案された「質問タイム」と「ほめ言葉のシャワー」に週に3日取り組んでいる。

「質問タイム」は、朝の会で行い、その日の主役に全員が質問をする。楽しい質問や意外な答えで朝から教室に笑いが起こる。また、主役の内面を深掘りする質問もあり、新たな友達の一面を知ることできる。



「ほめ言葉のシャワー」は、終わりの会で行い、クラス全員がその日の主役の良かったことを伝える。みんなからほめてもらった主役は自然と笑顔になり、教室全体が温かい空気に包まれる。また、主役をほめるためには、主役の良い行動を見ておく必要がある。ふだんから友達の良さを見る習慣が付き、認め合う風土が高まる。

学級の人数によって異なるが、1年間で全員が4回程度主役になる。3周目にもなるとマナー化の課題も出てきたが、研修で困っていることを話し合い、効果的な工夫を共有することでよりよい活動へと高めることができた。次のような働きかけが効果的であった。

- ・一巡するごとに、少し負荷をかける。
- ・(例) 3文で、1人30秒以内、前の人に関連させて
- ・「型」を示し、それらを活用して話しやすくする。
- ・(例) 「～のことです(時)。～していましたね(事実)。～な人ですね(価値付け)」
- ・慣れるまでは、話すことを書かせてから、話すようにさせる。
- ・よりよい活動にするために、一巡するたびに児童にふり返りをさせる。

このように工夫をしながら1年間継続することで対話の絶対量が保証され、話す力も飛躍的に向上した。同じ活動をしていても、担任のやり方や学級のカラーによってその学級独自のスタイルが生まれる。5年間、全校で取り組み続け、「ほめ言葉のシャワー」と「質問タイム」は、互いに認め合う学校風土を作るための鶴居小学校の文化となっている。

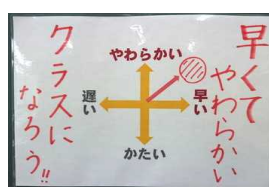
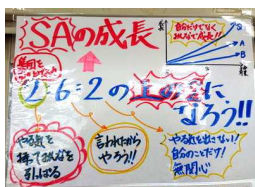
## (2) ポジティブな思考や行動を価値づける「価値語」

2017年度からは、全校で「価値語」に取り組み始めた。価値語とは、ポジティブな考えや行動を価値付けした言葉であり、児童の学校生活の指針となる。「価値語」には「与える価値語」と「切り取る価値語」と「生み出す価値」がある。



### <与える価値語>

教師が児童に提示し、あるべき行動や考え方を教える。学年始めは、学習規律を価値語として提示することも多い。イラストなどで可視化することで、より理解が深まる。



### <切り取る価値語>

児童のポジティブな行動を価値付ける。鶴居小学校では、写真に価値語を書いて教室に掲示している。最初の頃は、教師が価値語を考えましたが、慣れてくると「写真に名前をつけてごらん」と児童に価値語を考えさせた。



### <生み出す価値語>

児童が価値語の意義を理解すると、自分たちで価値語を生み出すようになる。日記や自学で価値語を考えたり、「ほめ言葉のシャワー」で価値語を使って友達をほめたりする子が出てくる。それらを取り上げて紹介することで、たくさんの価値語が児童から生まれ、広がっていく。

2019年度からは、学級の価値語を全校に広げるために「価値語イイネ！」と「みんなで価値語」に取り組んだ。

「価値語イイネ！」は、教室の価値語の中から全校に広めたいものを中央玄関に貼り出し、すてきな価値語だと思った児童が用紙に名前を書くという取組である。1週間もすると B4 用紙が児童の名前でいっぱいになった。



「みんなで価値語」は、ポジティブな行動をした児童の写真を中央玄関に貼り出し、全校生に価値語を募集する取組である。毎回、30人以上の児童がすてきな価値語を考えて

応募してくれた。写真の児童が、応募された価値語の中から気に入ったものを選ぶ。価値語を考えてもらった児童も、選んでもらった児童も笑顔になる。

### (3)「主体的で、対話的で、深い学び」のある授業の追究

「ほめ言葉のシャワー」や「質問タイム」「価値語」の取組によって育まれた学級風土や対話力をベースに、2018年からは「主体的で、対話的で、深い学び」のある授業の追究に取り組んでいる。

まず、教師が共通の視点を持つために、右のような『鶴居小「主体的で、対話的で、深い学び」をみるものさし』を作成した。ものさしの6つの視点を意識して、研究授業や研究討議を行ってきた。ものさしを意識することで指導要領のねらう授業改善のポイントが明確になってきた。

また、研究の方向性や研修の学びなどを共通理解するために、研究通信を発行している。1年間で20号あまり発行しており、若い教師の学級経営や授業作りに役立っている。研究授業では、毎回「主体的」「対話的」「深い学び」につながる様々な手法や働きかけが提案されてきた。

鶴居小「主体的で、対話的で、深い学び」をみるものさし Ver. 3  
(2019.10)

主体的	<p>①授業のねらいや題材が適切であり、教師の発問やパフォーマンス(※1)によって、児童の主体的、意欲的な行動がみられるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話す(自分の考えを話す、友達と相談する)</li> <li>・書く(自分の考えを書く、友だちの意見をメモする)</li> <li>・読む(教科書や資料を読む)</li> <li>・調べる(辞典や資料)</li> </ul> <p>※1教師のパフォーマンス ← 言葉(ほめる、認める、はげます 等) 身体スキル(雰囲気、態度、ふるまい、しぐさ 等)</p>
対話的	<p>②対話方法や対話させるタイミングは適切で、児童の思考が広がっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己対話</li> <li>・ペア</li> <li>・グループ</li> <li>・自由起立</li> <li>・話し合い(討論、ディベート)</li> </ul> <p>対話は、授業の中で意図的に取り入れる。意図なく、「とりあえず対話」をさせない。 (活動あって指導なしを排除する)</p>
深い学び	<p>③教師が対話を見とり、効果的にコーディネートしているか。</p> <p>目標は、教師ではなく、児童同士でコーディネートできるように仕掛けていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つなげる</li> <li>・別言葉で言わせる</li> <li>・とりあげる</li> <li>・軌道修正</li> <li>・切り返し</li> </ul>
深い学び	<p>④児童が思考する発問や組み立てであるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・拡げる発問(拡散的発問)・・・多様な考えを引き出す。</li> <li>・束ねる発問(収束的発問)・・・児童の考えを絞っていく。</li> </ul>
深い学び	<p>⑤情報を選択し、自分の意見を考えているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書や資料の言葉や文から必要な情報を取捨選択している。</li> </ul>
深い学び	<p>⑥相手の意見を踏まえて、自分の意見を考えているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つなげて発言する(～さんに付け加えて)</li> <li>・質問する(～ですか)</li> <li>・同意する(～さんと似ている、～さんと同じで)</li> <li>・反論する(～さんの意見に反論します。～)</li> </ul>

#### <参加型板書>

児童自身が自分の考えを黒板に書くなど、黒板を児童に開放する。黒板に書かせることで、容易に互いの考えを共有することができる。黒板にある意見を元に、対話をしたり、討論をしたりして考えを深めることができる。

#### <効果的な対話>

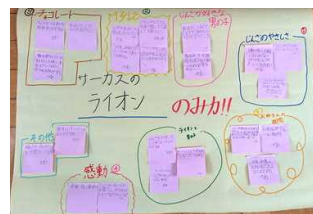
鶴居小学校では、一人一人に必ず自分の考えを持たせてから対話をするを共通理解している。ノートに考えを書かせたり、意見が決まった児童から座らせたりするなど、まずは、自分の考えを明確にさせる。その後、ペア対話やグループでの話し合い、討論などにより考えを深めていく。また、対話させるときには、話し合いの視点を持たせておくことも重要である。視点がなければ、ただの考えの出し合いになり、深い学びにつながらない。

#### <付箋の活用>

互いの発表を見て、良いところやアドバイスを伝えるときには付箋を活用すると効果的である。付箋に書くことで、伝えたいことを整理することができる。また、自由に貼り直すこともできるため、考えを整理するときにも有効である。

#### <熟議スタイル>

文部科学省が推進する「熟議」を教科の指導でも活用している。4人程度のグループでテーマについて「自分の考えを付箋に書く」→「出し合う」→「分類する」→「分類したものをラベリングする」の順序で内容を整理する。整理するときに自然と相談したり、対話したりして意見をまとめていく。多様な考えを折り合いをつけて、まとめる学習にもなる。



これらの手法を効果的に活用することで、児童同士が、主体的に、対話によって学びを深めることのできる授業を作っていきたい。

### 3 取組の成果

#### (1) 認め合う学級(学校)風土の醸成

年度末のアンケートから、児童がこれらの取組を肯定的に捉えており、認め合うことの価値を実感していることが分かる。感想からも、自尊感情や他者理解の高まりを感じる。

質問内容	2017年度	2018年度
来年度も「ほめ言葉オシャワー」をしたいですか。	88%	93%
来年度も「質問タイム」をしたいですか。	93%	96%

#### <ほめ言葉のシャワーの感想>

ほめられたいという気持ちで主役になってもほめられるようになって嬉しかったです。ほめられるとこれまでもが人よりいい気持ちになれます。ほめ言葉のシャワーのおかげで自分のいいところもいっぱい見つけられるようになりました。ほめでもほめられなくても人にえがおになります。これから自分たちをいっぱいほめたいと思いました。(3年)

自分が自信がなくなっている行動や知らないうちにクラスメイト、おんががまわって来てくれたりしてくれました。歌いながら自分たちのいいところをみんなに見せたいところを思い、しょうけんも観察して、自分と比べて何が得意なところか、これを伝えていくと、自信が持てるどころか、自分より自分の方が得意なところが多い小学校生になると思います。(6年)

#### <質問タイムの感想>

質問タイムがはじまってから3年生のときまでのことがいっぱいしれてうれしかったです。人のことがいっぱいしれたから友達とほなすきかいかまえよりもとてもしらばいになりました。つきばもとこまかいところまでしりたいです。(3年)

最初は質問タイムなんて全然知らなくて、おんががしんくてもいふんじでなつかしく思ってたけど、はじめての質問タイムのとき、後につくような質問をよく答えることができて、思っています。あと、いろいろな人の質問に答えるとき、自分ではあまり気にしてなかったことまで思い出すので、いいと思います。(6年)

#### (2) 表現力や対話力の向上

鶴居小学校では、誰かが話をするときには「正対」が合い言葉になっている。聞き手は、話し手に体を向け、最後まで話を聞くことが習慣になってきている。このような風土の中、対話の絶対量を保証することで、安心して生き生きと自分の考えを表現できる児童が増えてきた。授業中、ペアやグループで対話が活発に行われたり、児童の発言のみで討論の授業が進められたりと対話力の向上が感じられる。また、運動会や学習発表会などの学校行事では、保護者から子どもたちの生き生きとした表現力を評価する感想をたくさんいただいた。中でも次の感想は取組の成果の表れとも言える。

あったかい雰囲気での運動会でした。子ども一人一人のがんばっている姿をその時々ほめてくださっていて、帰ってきて先生にほめてもらった事を自慢してくれました。日頃、子どもたちへの「お友達のよいところをほめよう」という教育が、先生方にも見られて、いい小学校だなあと感じた運動会でした。

### 4 課題及び今後の取組の方向

教師が工夫しながら認め合う学校風土の醸成に取り組んできたことが、子どもたちの主体的な取組につながってきている。

放送委員会では、中央玄関に「友達ほめほめカード」を置き、書かれた内容を給食の時間に放送している。また、美化福祉委員会では、一生懸命掃除をしている児童の写真を中央玄関に掲示し、すごいと思った写真に名前を書いて



もらう「おそうじイネ」に取り組んだ。他にも「6年生を送る会」では、「6年生へのほめ言葉のシャワー」が企画されたり、表が顔写真、裏が卒業生へのほめ言葉になっている「6年生カルタ」をプレゼントしたりした。

今後は、このような児童主体の活動を広げ、教師主導から子ども主体の認め合いへ取組を進めていきたい。

